

予算300億円・新設集中型

広域防災拠点に生まれ変わるJR貨物仙台貨物ターミナル駅＝仙台市宮城野区

宮城県

東日本大震災を踏まえて大規模災害に備える「広域防災拠点」の構想実現に取り組み岩手、宮城両県が、コンセプトや整備手法をめぐりそれぞれ持ち味を發揮している。宮城が施設を新しく建設する「集中・大プロジェクト型」なら、岩手は既存施設を活用する「分散・低予算型」。両県はハード整備とともに、運用の仕組みづくりを急ぐ。

宮城県は、宮城野原公園総合運動場(仙台市宮城野区)一帯を広域防災拠点の予定地に定める。拠点整備は、「創造的復興」を掲げる村井嘉浩知事が、その中核に位置付ける事業だ。運動場に隣接するJR貨物の仙台貨物ターミナル駅敷地を買収して公園化。大規模災害時に

は救援隊や物資を集結させ、県内各地に分配する。ヘリポートも備える。本年度中に基本設計を終え、2020年度以降の運用開始を目指す。

整備手法違い鮮明

だが、政府の復興財源見直しが整備構想の推進に影響を落とす。「過度な地元負担が求められる。国の社会資本整備総合交付金を活用するが、県の負担は140億円程度に達する。巨額の支出が県財政を圧迫しかねない。「最小限のコストで事業を進める努力をしている」と村井知事。県民への理解を求めている考えだ。

一方の岩手県は、広域防災拠点に5カ所を分散指定する。全県の災害に対応する広域支援拠

点に県央の盛岡・花巻エリアを指定。他の4カ所は、後方支援拠点として人や物を集める。運動場や学校、花巻空港などを活用し、新たな施設は一切造らない。15年度までの関連予算は備蓄費など4000万円程度。本年度から運用訓練を進め

岩手県

岩手・宮城両県の広域防災拠点構想

	岩手	宮城
予算	4000万円	300億円
整備拠点数	5 1広域支援拠点と4後方支援拠点	1 7圏域防災拠点と連携
運用開始時期	2015年度以降	2020年度以降

〔注〕予算は岩手が15年度当初まで、宮城は総額

予算4000万円・既存分散型

東北大災害科学国際研究所の佐藤健教授(地震防災)は「拠点整備に加え、被災者支援は市町村との連携強化が大切」と指摘する。巨額の税金が投入される宮城県の構想について「県民理解を深めながら、日常の利活用策の検討を進めることが重要だ」と話す。